

Cappella Accademica 46th Concert

カペラ・アカデミカ第46回定期演奏会

♪ H. パーセル: アブデラザール組曲(ムーア人の復讐)

♪ J. ルクレール: ヴァイオリン協奏曲 ハ長調 Op.7 No.3

ヴァイオリン: 永井 正子

~~~~~休憩(15分)~~~~~

♪ D. チマローザ: 2本のフルートの為の協奏曲 ト長調

フルート: 加藤 暁奈、続 真樹

♪ J. ハイドン: 交響曲第1番 二長調 Hob. I-1

♪ W. モーツァルト: 交響曲第37番 ト長調 K.444

指揮: 吉川 紀彦

2015年**11**月**23**日(月)

開場 午後**1時30分** 開演 午後**2時00分**

浜松市浜北文化センター 小ホール

主催: カペラ・アカデミカ

後援: (公財)浜松市文化振興財団、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社

## ご挨拶

本日は、ようこそお越し下さいました。

今回は、イギリス・バロック、フランス・バロックと古典派初期の作品を取り上げてみました。モーツァルトの交響曲第37番は、1907年にヨハン・ミヒャエル・ハイドンの作品であることが判明したという曰く付きの作品です。皆様とご一緒に定期演奏会を楽しみたいと思いますので宜しくお願い致します。

カペラ・アカデミカ団員一同

## 出演者

### 吉川 紀彦（指揮）

神奈川県横浜市出身。大阪労音管弦楽団にて練習指揮者兼ヴァイオリン奏者として活躍。1970年に大阪市民管弦楽団の設立に参画。1972年浜松に居住を移し、1974年9月にカペラ・アカデミカの設立に参画した。ヴァイオリンを比企康蔵、藤田康夫、指揮法を濱田徳昭の各氏に師事。ヤマハ発動機(株)等を経て、現在、アルカート（海外技術コンサルタント業）代表、（一社）日本経営士会会員、カペラ・アカデミカ代表を務める。

### 永井 正子（ヴァイオリン）

愛知県出身。愛知教育大学卒業。ハンブルクコンセルヴァトワールにて研鑽を積む。これまでに松野友子、神戸潤子、T. ミッテルベルガー、M. シュトリヒャルツ、室内楽を H. シュミッツに師事。現在は指導の他、室内楽を中心に演奏活動を行なっている。カペラ・アカデミカ団員。

### 加藤 暁奈（フルート）

浜松市浜北区出身。洗足学園音楽大学卒業後、同大学院修了。フルートを山内しほ、田中貫一、中野真理、真鍋恵子の各氏に師事。現在、アンサンブルを中心に演奏活動を行っている。木管四重奏「もくちゃん」メンバー。

### 続 真樹（フルート）

浜松市浜北区出身。洗足学園大学卒業。フルートを田中貫一、小林茂の各氏に師事。現在、ソロやアンサンブルの演奏活動を行う一方、後進の指導に当たる。静岡県フルート協会会員、浜松フルートクラブ理事。

### カペラ・アカデミカ

浜松と豊橋在住の専門家、アマチュアにより結成された室内合奏団で、今は亡きバロック音楽の大家で皇太子殿下が師事された故濱田徳昭先生により命名され1974年（昭和49年）9月2日に誕生しました。濱田先生のもとで主に宗教曲の演奏法などを学び、その後合奏団独自の定期演奏会を年2回及びその他の演奏会を2～3回開催し、室内アンサンブルのインティメイトな世界を創り上げること目標としています。

| <u>1<sup>st</sup> Violin</u> | <u>2<sup>nd</sup> Violin</u> | <u>Viola</u>   | <u>Cello</u> | <u>Double bass</u> |
|------------------------------|------------------------------|----------------|--------------|--------------------|
| 今井 重人                        | 磯貝 ゆり                        | 木下 正明          | 杉浦 敏彦        | 小林 哲               |
| 亀坂 美月                        | 加藤 恵一                        | 桑原 義彦          | 浜島 吉男        | 早川 浩一              |
| ◎釘本 英範                       | 末田 良                         | 吉川 紀彦          | Lynn Konishi |                    |
| 永井 正子                        | 林 明子                         |                |              |                    |
| 水谷 緑                         | 宮崎 秀生                        |                |              |                    |
| <u>Flute</u>                 | <u>Oboe</u>                  | <u>Bassoon</u> | <u>Horn</u>  |                    |
| 加藤 暁奈                        | 江間由希子                        | 福村 寛史          | 小出 寿朗        |                    |
| 続 真樹                         | 大橋 弥生                        |                | 佐藤 博子        |                    |

◎はコンサート・マスター

## 曲目解説

### ■ ヘンリー・パーセル(1653~1695) : アブデラザール組曲「ムーア人の復讐」

17世紀に活躍したイギリスの作曲家。イタリアやフランスの影響を受けつつ、独自の音楽を生み出したことで知られています。イギリスの女性劇作家・小説家であるアフラ・ベーン(1640-89)の劇作品「アブデラザール、もしくはムーア人の復讐」に付けられた音楽です。アブデラザールとは、この劇の主人公であるムーア人(ヨーロッパ人が、北西アフリカに住むイスラム教徒をさした呼称)の名前で、アフリカ北西部・フェスの君主であった父をスペイン国王によって殺され、幼くしてその庇護下に入ったアブデラザールは、やがて策略をめぐらせてスペイン王家に対する復讐を果たそうとします。彼は次々と邪魔者を排除し、ついにはスペイン国王の座にまで就こうとするが、最後には腹心の部下に裏切られ非業の死を遂げます。アブデラザールをはじめ、多くの人間の思惑が交錯する複雑なストーリーです。ヘンリー・パーセルによる付随音楽にはこうした、どす黒いストーリーにふさわしい陰鬱とした雰囲気も感じられますが、それ以上にパーセルの持ち味の、その独特の典雅な調べの美しさ、気品が漂っています。組曲は9曲で構成されており、第2曲目のロンドはベンジャミン・ブリテンの有名な「青少年のための管弦楽入門-パーセルの主題による変奏曲とフーガ」の主題として親しまれています。

1. 序曲、2. ロンド、3. アリアⅠ、4. アリアⅡ、5. メヌエット、6. アリアⅢ、7. ジーグ、
8. ホーンパイプ、9. アリアⅣ

### ■ ジャン=マリー・ルクレール(1697~1764) : ヴァイオリン協奏曲 ハ長調 Op. 7 No. 3

ジャン=マリー・ルクレールは、18世紀フランスにおけるヴァイオリン演奏の巨匠であり、フランス=ベルギー=ヴァイオリン楽派の創始者と見なされています。トリノでコレルリの弟子であったソーミスに師事、1728年には再度パリに戻り、1725年から活動を開始したコンセール・スピリチュエルのコンサートに登場し成功を収めました。演奏だけでなく数多くのソナタや協奏曲を作曲し出版し、フランス以外の国でも有名となりました。もともとケルン音楽院の古楽器科の学生らだったメンバーが1979年に集まったカメラータ・ケルンは、17~18世紀の音楽への欲望と想像力、そして研究と音楽作りのための自発性とを組み合わせ、全く新しいサウンドや解釈を実現させています。そこに芸術的解釈が加わり、このルクレールの音楽を、ソロとオーケストラという形式ではなく、室内協奏曲の延長というアプローチで聴かせています。

第1楽章 : アレグロ・マノン・トロツポ、第2楽章 : アダージョ、第3楽章 : アレグロ・アッサイ

### ■ ドメニコ・チマローザ(1749~1801) : 2つのフルートの為の協奏曲 ト長調

チマローザは、ナポリ付近のアヴァルサに生まれ、ヴェネチアで亡くなったイタリアの作曲家です。ロレトの聖マリア音楽院で、後期ナポリ派オペラの代表者ビッチーニ指示した後、1772年にナポリでオペラ作曲家としてデビューし、バイジェルロと並んで、当時ヨーロッパ全土を風靡したオペラ・ブッフアの代表的な作曲家となりました。チマローザは、いくつかのミサやモテット、7つのオラトリオ、ピアノソナタなども作曲しましたが、最も優れた才能を示したのは、64曲と言われているオペラの分野であり、なかでも1792年にウィーン宮廷のために書かれたオペラ・ブッフア『秘密の結婚』は、旋律の美しさや自然に溢れた情緒においてモーツァルトにも匹敵する傑作でペルゴレージの『奥様女中』やモーツァルトの『コシ・ファン・トゥッテ』と共に、18世紀オペラ・ブッフアの代表作と言われています。今日演奏する2つのフルートのための協奏曲は、1793年に作曲され、オペラ風の旋律が随所に現れチマローザの特徴がよく現れています。

第1楽章 : アレグロ、第2楽章 : ラルゴ、第3楽章 : ロンド

## ■♪ フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(1732~1809) : 交響曲第1番ニ長調 Hob. I-1

1732年に、ハンガリー（ブルゲンラント）との境界に位置するローラウという村の鍛冶屋の息子として生まれたハイドンは、古典派を代表するオーストリアの作曲家で、多くの交響曲や弦楽四重奏曲、オペラを作曲し、「交響曲の父」とも、「パパ・ハイドン」とも呼ばれています。ハイドンは、幼い頃から音楽の才能があり、6歳で親戚の家に送られ、聖歌隊として音楽の勉強を始めました。1740年、ハイドンは、8歳でウィーンの聖シュテファン大聖堂の児童合唱団に入学し、ボーイ・ソプラノの才能を認められたことから、ウィーンに住むようになりました。しかし、1749年ハイドンは、声変わりのため高音部を歌うことができなくなって解雇されてしまいます。尚、解雇に際しては、他の団員のカツラを鋏で切ると言う事件を起こしたという伝説があります。その後約10年間、他の合唱団に拾われたり、友人の家に住み着いたりしながら、フリーの音楽家として活動を始めます。1759年、ハイドンは、ボヘミアのカール・モルツィン伯爵家の学長となり、交響曲を作曲しました。今日演奏する第1番は、「交響曲の父」と呼ばれるハイドンの記念すべき第1番の交響曲です。本当に「第1番」かどうかは不明です。ハイドンは有名なエステルハーゼ侯爵に仕える以前（1761年以前）のモルツィン時代の1759年以前に作られています。最初期の作品であることは確実なのですが、他にもこの時期に書かれた曲が14曲あるという説がありますので、「第1番」とは言い切れないということになります。

曲は急—緩—急の3楽章構成です。イタリアのオペラ・シンフォニアに由来した形式となっています。

第1楽章：プレスト

第2楽章：アンダンテ

第3楽章：プレスト

## ■♪ W. モーツァルト(1756~1791) : 交響曲第37番 ト長調 K. 444

モーツァルトの交響曲第37番という楽曲は存在しません。20世紀初頭まで交響曲第37番ト長調K. 444として知られていました。しかし1907年、ヨハン・ミヒャエル・ハイドン（1737~1806）（今日演奏する交響曲第1番のフランツ・ヨーゼフ・ハイドンの弟）の研究家ペルガー（M. ハイドンの作品番号を表す「P(erger).」は彼の名に基づく）によって、もう一方の第37番に関して新たな事実が明らかになりました。それまでモーツァルトの交響曲第37番として知られていた作品は、ミヒャエル・ハイドンが1783年5月に作曲した交響曲第25番P. 16にモーツァルトが作曲した序奏をつけ加えたにすぎないものだということが判明したのです。これを受けて1964年に刊行されたケツヘルカタログ第6版では、この序奏のみをモーツァルトの作品として記載し、ケツヘル番号も従来のK. 444からK. 425a / Anh. A53（Anh. は断片などを表す）へと変更されました。また、第38番以降の交響曲はいずれもモーツァルトの代表作であり、曲そのものと番号とが強く結び付けられて記憶されているため、番号の繰上げ変更がなされることはなく、交響曲第37番は欠番となりました。

第1楽章：アダージョ・マエストーソ

第2楽章：アンダンテ・ソステヌート

第3楽章：アレグロ・モルト